

皆さんこんばんは。今日は、恵美寿RCとの合同お月見例会です。お客様としまして、東京恵比寿RC野村元久様、随行の澤田麻衣子様、米山奨学生 金君、地区奨学生 津村様、二胡奏者の鳴尾牧子様ようこそお越しいただきました。ごゆっくりとお過ごしください。

先日の台風21号による高潮などの影響で、関西空港では旅行客らが一時約 8000 人孤立しました。また今朝、北海道で震度6強の地震が発生し、大規模な被害が出ている模様です。被害にあわれた方には心よりお見舞申し上げます。

今日は「ブータン王国」のお話をします。

ブータンはGNH(国民総幸福量)を追求する政策をかかげています。GNHというのは第4代ブータン国王が1972年に主唱した思想です。

ある国際会議の記者会見で記者から国王に対して、「ブータンは世界で一番GDP(国内総生産量)の低い国ではないのか」という質問がありました。

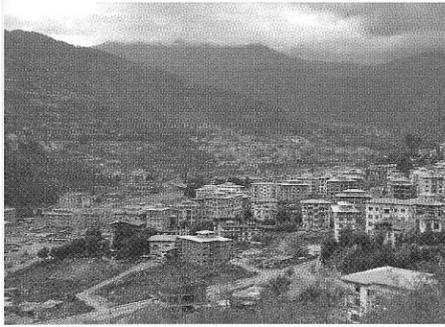
そのとき国王が「我々は(GDP)を語るのではなく(GNH)を語る」と答え、有名になったのです。

これは国民一人ひとりの幸福量を最大にするという意味です。

国民総幸福量という考え方の根底には、欲望のコントロールという考え方があります。近代資本主義経済の発達した社会では、欲望を持つのは良いことだと考えられています。

しかしブータンの社会では仏教と重なり合って、個人の欲望をコントロールしようとしています。

ブータン人の生活満足度の高さは衝撃的です。



首都ティンブーは人口約10万人のブータン最大の都市。標高2,320mの地にある

「健康面」「経済面」「仕事面」「家族面」の4項目の満足度をたずね、「満足」「まあ満足」を選んだ人の割合を足し合わせると、4項目すべて(85%以上)という高さだったからです。

ブータン人の考え方を示す興味深い話として、東ブータンの知事が、ある農民に収穫量が格段に増える稲を試験的に栽培するよう依頼しました。

農民がそれを栽培したら、本当に2倍の米が収穫できました。

知事は来年もこの稲を植えるように依頼しました。

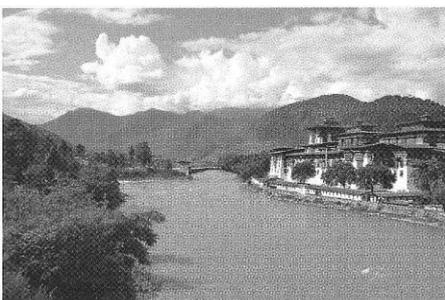
しかしその農民は「私は来年分の米まで収穫したから、来年は余裕を楽しみ、精神的な生活を送りたい」と断ったということです。

現状に満足しているブータンの農民にとって、なぜ収入を2倍にしなければならないのが理解しにくいことなのです。

人口の大半が農業に従事するブータン人がいかに自然に溶け込み、自然と調和した生活を営んでいるかが分かります。

ブータンを研究してきた「今枝由郎氏」の話では、ブータン人も最近は何時間もテレビを見ていますが、日本人と違うのは、朝起きたら布団の上に座り、30分ほど瞑想にふけているということです。

ブータン国立博物館の館長は「人間は常に瞑想しなければならない。心の中を旅することによって、自分がやっていることが良い事か悪い事かを問いかける必要がある。自分の持っている欲望の善悪について問いかけることが必要だ」と言われています。



ブナカゾン。ホチュ川とモゲ川合流点にあるブナカは、かつてブータンの首都だった。シャブドゥンは今もこのゾン(城塞)で瞑想中とされる



ブータンの大学生たち。ブータンでは、首都ティンブーに学生が集中しないよう、多くの学部のキャンパスが地方に作られている

